

過ごしやすい避難所について考える生徒たち
|| 東松島市矢本二中



矢本二中

避難所の在り方で意見

防災テーマに特別授業

東日本大震災後、防災教育に取り組んでいる東松島市矢本二中菅原誉人校長、生徒419人で16日、特別授業があった。生徒たちは、避難所の在り方についてアイデアを出すなどしながら防災への関心を深めた。

公益社団法人「セーブ

・ザ・チルドレン・ジャパン」とNPO法人「プ

ラス・アーツ」が共同開

発した防災教育教材を使

用。1年は防災グッズの

活用、2年はいざという

とき役立つ防災グッズ、

3年はみんなが心地よい

避難所をテーマに取り組

んだ。

3年4組では、担任の

鴫田貴文教諭が震災当時

小学6年生だった生徒た

ちに「避難所生活で困っ

たり、ストレスを感じた

ことほ」と質問。これに

対し「動物の臭いや、へ

ドロ、ガソリンなどの悪

臭がひどかった」「避難

所の床が固くて寒かった」などと答えた。こうした意見を参考

に、学校の体育館を想定し過ごしやすい避難所をつくるための意見を班に

加えるといい」などとアイデアを出していた。

分かれて出し合った。避難スペースを男女別に分けた班からは、授乳する母親らに配慮したり、すぐに手助けできるよう男の人たちを障害者やお年寄りに近い場所に配置したりする提案が出された。

避難所に掲示板を設けるとした班もあった。鴫田教諭は「情報の共有化は大切。安否確認なども加えるといい」などとアイデアを出していた。